

# 東日本理工科系大学体操競技選手権大会男子適用規則（2023年度版）

## 第1章 採点方針

本規則の方針は、一般規則に準拠（目的、ねらい等）しつつ、大会の競技水準を考慮し、選手に対して公正かつ教育的な採点を行うことをねらいとする。また、採点においては、全日本および関東学生体操競技連盟主催の競技会への出場を目指す選手にとって日々の練習目標として効果的に働くように実施する。

## 第1条 演技の採点

演技の決定点はDスコアとEスコアの合計により算出する。

## 第2条 Dスコア

跳馬を除くすべての種目は次に掲げる難度点、要求グループ、加点から算出する。

跳馬においては採点規則男子2022年度版（日本体操協会）に準じた難度表の価値点と加点から算出する。

### 1 難度点

採点規則男子2022年度版（日本体操協会）に記載され、演技において認定された技から難度の高いものを順に10技までを数え、それぞれの難度に応じた点数を合計し、難度点とする。ただし、同じ技については3回目以降を技として認定しない。

難度に応じた点数は下記の通りとする。

難 度	A	B	C	D	E	F	G	H	I
点 数	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9

### 2 要求グループ

跳馬を除くすべての種目に4種類の要求グループがあり、演技全体からみて1つを満たすごとに0.50が与えられる。ただし、1技で2つの要求グループを満たすことはできない。

各要求グループから最大5技までを有効とする。

終末技のグループ要求については、以下のとおりとする。

A 難度の終末技	0.1
B 難度の終末技	0.3
C 難度以上の終末技	0.5

a) ゆか

- I 跳躍技以外の技
- II 前方系の跳躍技
- III 後方系の跳躍技
- IV 終末技（グループ I 以外の技）

※ 2回宙返り未実施によるニュートラルディダクションは適用しない。

b) あん馬

- I 片足振動技と交差技
- II 旋回、旋回倒立、転向技
- III 旋回移動・転向移動技
- IV 終末技

※ 馬体3部分を使用しない場合、0.3のニュートラルディダクションとする。

c) つり輪

- I 振動・振動倒立技
- II 力技・静止技
- III 振動からの力静止技（2秒静止）
- IV 終末技

※ 振動倒立技未実施によるニュートラルディダクションは適用しない。

※ EG II と EG III を連続することの連続規制は適用しない。

d) 平行棒

- I 両棒での支持技
- II 腕支持振動技
- III 長懸垂・逆懸垂振動技
- IV 終末技

e) 鉄棒

- I 懸垂振動技
- II 手放し技
- III バーに近い技・アドラー系の技
- IV 終末技

### 3. 加点

全ての演技について、下記の項目において合計 1.0 までの加点が認められる

- ・ 優雅さ、雄大さ、安定性について顕著に認められる演技に対して加点が与えられる。
- ・ 演技全体として安心してみられる演技（全体的に継続的で安定性のある演技）
- ・ 各技において、顕著な雄大さがみられる演技
- ・ 演技の終末局面において、余裕のあるさばきや着地の先取りが顕著にみられる演技
- ・ 演技構成において、個人の能力に応じた工夫や希少な技の組み合わせのみられる演技

#### 4. 短い演技に対して

短い演技に対しては、採点規則男子2022年度版6-3条のニュートラルディダクションを適用する。

### 第3条 Eスコア

#### 1. 減点項目

減点項目については概ね下記の通りとし、細部については教育的配慮も含め各審判員の裁量とする。また、場合に応じ0.05の採点も可とする。

なお、大欠点および落下による減点が生じた技においては技として認定できない。

- ・ 微欠点 : -0.1（姿勢の軽微な乱れ、手の持ちかえ、倒立等での1歩等）
- ・ 小欠点 : -0.2（四肢、体幹の部分的な明らかな曲がり、開き等）
- ・ 中欠点および停止 : -0.3から-0.4（落下はしないが明らかな技の失敗等）
- ・ 大欠点および落下 : -0.5（技の失敗）
- ・ 跳馬においてロイター板を踏まなかった場合は、1回の再試技を可とする。

#### 2. 特殊な減点項目

特殊な減点項目については下記の通りとする。

なお、直接ラインを越えての着地をした技においては技として認定できない。

- ・ ダブルスイングに関する減点 : 全体で-0.3まで
- ・ 選手として不規律な態度 : 各種目の得点から-1.0
- ・ 試合着の不備 : 最初の種目のみチーム得点、個人得点から -0.5
- ・ 要求グループが極端に偏った演技 : -0.3
- ・ ラインオーバー（片手もしくは片足） : -0.1  
     （両手、両足、片手と片足もしくは手足以外の部分） : -0.2  
     （直接ラインを越えての着地） : -0.3

## 第2章 補 足

## 第1条 ゆか

ゆか種目においては、ポンピングマットを用いて行い、往復による演技とする。

採点規則男子2022年度版のゆかのフロアエリアは、ポンピングマット上及び隣接した着地マット上とする。

## 第2条 採点規則に記載されていない技

採点規則に記載されていないが、下記の技はそれぞれの種目において、要求グループ、難度、価値点を認定する。ただし、グループなしの技については、技として認定するが、要求グループは認定しない技とする（大学選手権としての水準を考慮して）。

### 1. ゆか

グループⅡ 前方系の跳躍技

B難度 前とび倒立静止、前とび1/2ひねり倒立、日本式とびあがり静止

グループⅢ 後方系の跳躍技

B難度 後転とび倒立、後ろとびして首部上に屈伸で受け首はねおき直立

C難度 後転とび（屈伸姿勢）倒立、後転とび倒立静止

グループなし

A難度 伸膝前転、伸膝後転、側方倒立回転、片足旋回、前とび倒立、ロンダート、頭・くびはねおきひねり開脚（前後開脚）座、頭・くびはねおきひねり正面支持臥、日本式とびあがり、後ろとび正面臥回転（バックロール）

### 2. あん馬

グループなし

A難度 四つあし、片足旋回、浮き腰支持1/2ひねり、  
順手開脚下向き転向（スイスサンプル）、上向き転向おり、  
横向きおり

### 3. つり輪

グループⅠ 振動・振動倒立技

B難度 屈腕本転逆上がり倒立、屈腕後ろ振り上がり倒立

グループなし

A難度 前・後方抱え込み支持回転、肩倒立、倒立、力上がり脚前拳、  
屈腕屈伸開脚倒立、開脚前拳支持、後方支持回転開脚おり、  
前方肩転移して開脚抜きおり

#### 4. 跳馬

グループなし

価値点 1.5 開脚とび、抱え込み（屈伸）閉脚とび、台上前転

#### 5. 平行棒

グループ I 両棒での支持技

A 難度 前振りひねり腕支持

B 難度 前振りひねり支持

グループなし

A 難度 棒端縦向きとび上がり開脚入れ支持、後ろ振り上がり支持、前転、後転、腕支持けあがり、支持後ろ振りから片手ひねりおり、支持後ろ振りから下向き転向おり、支持前振りから上向き転向おり、後ろ振りから閉脚入れしながら側面体勢で 1/4 転向おり、支持後ろ振り 1/4 ひねり倒立開脚おり

#### 6. 鉄棒

グループ III バーに近い技・アドラー系の技

A 難度 後方・前方足裏支持回転（フット）

グループなし

A 難度 後ろ振り上がり、振り出しひねり懸垂、順手車輪交差ひねり逆手支持（クロス）、後方・前方支持回転（前転・後転）、前方・後方浮き腰回転、後方浮き支持回転（ともえ）ふりとびおり、ヒコーキとびおり、

### 第3条 禁止技

個人の能力を超えた危険な技については、審判の判断で技として認定しないことが出来る。

### 第4条 補助について

事故防止と選手の精神的援助のため、つり輪、跳馬、平行棒、鉄棒において2名までの補助者が立つことが許される。

上記以外の種目においては、主審に了解を得て補助者が立つことが許される。

## **第5条 追加マットの使用**

追加マットの使用は、あん馬以外の種目に対し認められる。ただし、着地に関する減点は当該の減点を行う。

## **第6条 本規則の変更**

本規則は、大会当日の審判会議にて確認されるが、選手への教育的配慮の観点から一時的に部分的に変更する場合がある。

本規則は、FIG、日本体操協会による採点規則改正期に見直しを実施するとともに、連盟の承認を受けるものとする。

令和5年2月14日  
東日本理工科系大学体操競技連盟